

新たな流通に対応した加工・業務用キャベツ産地の育成

県央農林事務所経営・普及部門

加工・業務用野菜の需要が高まるなか、JA水戸茨城町キャベツ生産部会及び茨城中央園芸農業協同組合では春夏作と秋冬作の2シーズンで加工・業務用のキャベツ生産に取り組んでいます。そこで当部門では取引量の増加、取引期間の拡大安定供給のため、産地で問題になっている内部障害への対策、出荷時期の前進化、機械化一貫体系の構築支援など、加工・業務用需要に対応した産地の育成を支援しました。

安定供給への取組

春夏作のキャベツは主に6月下旬から7月にかけて内部障害（写真1）が問題となります。外観ではわかりませんが発生するとクレームや返品の対象となります。内部障害の対策として適期収穫の徹底、ほ場でのためし切りによる発生の有無の確認、集荷場での確認、発生しにくい品種の導入に取り組んだ結果、多い時では1シーズンで3t以上巻き込み症状での返品がありましたが、平成30年度はゼロにすることができました。



写真1 内部障害の症状

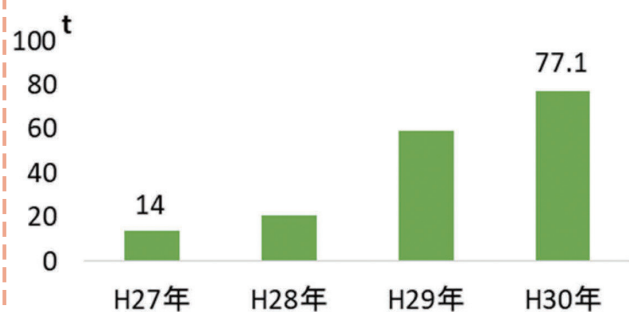


図1 5月出荷量の推移

出荷時期前進のための取組

5月出荷に対する実需者からの要望は以前からありましたが、春夏作の出荷は主に6月からとなっていました。出荷時期の前進化を図るため資材や栽培方法、品種比較等の試験を行ったところ、この地域に合った5月出荷の作付け体系を確立することができました。5月の出荷量は年々伸びており（図1）、実需者の要望に応えられる産地になりました。

機械化一貫体系の構築

規模拡大には省力化や適期管理・適期防除のための機械化一貫体系の構築が不可欠となります。そこで普及センターでは生産者に対して、定植機、防除機、除草機、ハーベスター（収穫機）などを導入するための各種事業等の活用を図るとともに、導入後の経営シミュレーションや作付計画について指導しました。あわせて産地に対して鉄コンテナの導入や、予冷庫の整備を支援し、その結果、機械化一貫体系を整備したキャベツ生産面積が15ha以上の大規模経営体（2経営体）を育成することができました（写真2）



写真2 ハーベスター（収穫機）での収穫の様子